

# 特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会 第16期通常総会議事録

2021年9月26日（日）15:00～16:30

場所：オンライン会議システムzoom

## 議事次第

1. 開会（司会：櫻 博子 ）
2. 理事長挨拶：清水善和
3. 総会成立の確認（報告：奥野玉紀）

本日の総会は、下記の通り、定款所定数を満たしたので有効に成立した旨を告げた。

	返信あり		返信なし	計
	出席	欠席・委任状提出		
正会員	12	27	25	64
比率	18.8%	42.2%	39.1%	100%
		60.9%		

4. 議長の選出：議長・清水善和  
議場において議長の選任を諮ったところ、満場一致をもって清水善和が選任され、議案の審議に入った。
5. 議事録署名人の選出：  
議長より、議事録署名人として、里見嘉英氏、奥野玉紀氏を選任したいとの提案があり、議場に諮ったところ、満場一致をもって承認された。
6. 議事（審議事項）
  - 6.1. 第1号議案：第16期（2020年7月1日～2021年6月30日）事業報告および収支報告
  - 6.2. 第2号議案：第17期（2021年7月1日～2022年6月30日）事業計画および収支予算
  - 6.3. 第3号議案役員選任

### 議事の経過の概要および議決の結果

事務局長の奥野より、第1号および第2号議案について説明があり、議長は理事会より本案について付議された旨を述べ、これを議場に諮ったところ、満場一致をもって異議なく可決した。

理事の奥野より、第3号議案について、当法人の理事および監事全員が令和3年9月末日をもって任期満了となるが、全理事・監事について重任を提案し、満場一致で承認された。なお、全員即時就任を承諾した。

## 7. 質疑、意見等

奥野より、コロナ禍におけるガラパゴスの現状の報告をした。

## 8. 閉会

以上をもって第16期通常総会の議案全部の審議を終了したので、議長は閉会を宣し、16時40分に散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において次に記名押印する。

令和3年9月26日

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会社員総会において

議長 清水 善和  
議事録署名人 里見 嘉英  
同 奥野 玉紀

※本書は複写であり押印は省略する

第16期の事業報告は、以下のとおりである。

※「担当」は、理事/監事/ボランティアを記載した(敬称略)。

<p><b>(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業</b></p>
<p>① ガラパゴスバーチャル体験学習ツアー企画・公表：2020年8月実施を想定して企画したが新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19と表記)拡大の影響により実施できなかったため、会報第24号に掲載し、バーチャルツアーとして紹介した。(会報発送7/13)担当：波形、奥野</p> <p>② スマートシティ・インスティテュート(SCI-Japan)ウェビナー シリーズD「サーキュラー&amp;エコノミーの視点から」『自然のために経済を回す。ガラパゴス(エクアドル)が挑む、持続可能な世界の作り方』登壇(奥野)：(7/9,8/7) <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Slzg7qqk1X8">https://www.youtube.com/watch?v=Slzg7qqk1X8</a> (7/9分オンデマンド配信)。5月追加インタビューを受け、IDEAS FOR GOOD上で公開(2021/6/30) <a href="https://ideasforgood.jp/2021/06/30/jaga-interview/">https://ideasforgood.jp/2021/06/30/jaga-interview/</a></p> <p>③ 「ガラパゴス写真コンテスト2020」開催(9月)。応募作品数約37点。ガラパゴスの高校生も応募。選考は総会後に参加者の投票にて最優秀賞1点、優秀賞12点を決定。例年は、ガラパゴスの学生が所属する写真家クラブにカレンダーの収益の一部を寄付するが、今年は渡航できなかったため結果のみ報告。</p> <p>④ 「ガラパゴスカレンダー2021」制作・頒布。写真コンテスト優秀賞作品を採用。11月下旬に600部納品、発送開始。ウェブショップ等で頒布190部、会員配布120部、講演聴講者、講演先学校に進呈約280部。COVID-19で現地に行けなかったことから、現地への進呈なし。残り約10部。制作担当：波形、里見、飯崎、奥野</p> <p>⑤ 講演活動：文教大学国際学部授業(奥野、Dr. Izurietaインタビュー、一木重夫氏@小笠原)、都立竹早高校1年生(11/9)、ダーウィンデイ@三代目ときやま商店(外苑前)(2/12,2/26)、風流カフェ@熊本・阿蘇(4/17)、あきる野市立一の谷小学校全校児童(5/21)、DE LA BLANCHE 1090 カフェ@奈良(5/22)、骨董サロン@神戸(5/23)、道城エコ・自然塾@オンライン(5/29)、NPO法人エクアドルの子どもたちのための友人の会@飯能(6/6)、など</p> <p>⑥ コーヒープロジェクトの普及：ガラパゴスコーヒーが日本で消費されることで、コーヒー農家への自立支援となり、売上の一部や寄付をチャールズ・ダーウィン財団に届けることで、現地では農家と共に外来種の駆除と植林を行い、保全が促進する仕組み。このための、ガラパゴスコーヒーを扱う焙煎士やカフェなどリテイラーを探した。また、ご協力頂ける方に渡すための生豆サンプルを購入し(16.7kg)、希望者に頒布した。</p> <p>⑦ 小泉進次郎環境大臣へ意見書提出：大臣が、複数のマスメディアにおいて「ガラパゴス(化)」という言葉にネガティブな意味合い(「ガラパゴスになってはいけない」等)で使用したことに対し、理事長名で、ガラパゴスに関する正確な知識の普及について協力をお願いする意見書を提出した(3月)</p>
<p><b>(2) ガラパゴスに関連する情報の収集および提供に係る事業</b></p>
<p>① メディア対応：テレビ朝日「アニマルエレジー」ウミイグアナ編(11月)、アオアシカツオドリ編(12月)、テレビ朝日「ワイドスクランブル」ゾウガメの密輸についてZoom取材・放映(3月)、徳間書店絵本について情報提供(4月)、その他、電話での取材・問合せなどに対応。</p> <p>② JAGAのホームページのリニューアル作業(2021年2月~)。これまでのホームページでは自力更新やスマホ対応に問題や不備があり、また支援の拡大を試みるため、NPOのウェブサイト構築に特化した制作会社に依頼した。(8/26オープン完了)新ホームページには、2010年に当会が著者となって発行された「ガラパゴスのふしぎ」(ソフトバンククリエイティブ新書)のコンテンツを可能な限りそのまま公開し、ガラパゴスに関する情報の広い普及を試みた。担当：里見、奥野、他役員全員。写真提供(会員)：波形克則、森英章、他。</p> <p>③ SNSによる情報発信：Facebook、twitterによるガラパゴスに関する情報の発信。ガラパゴスに関わる機関からの発信をシェアしたり、独自記事を発行したりして、約80記事を発信した。担当：里見、奥野</p> <p>④ メールニュース(1回)、会報(12月、6月)の発行。メールニュースは、ホームページのリニューアルに伴い、今後メルマガ仕様にするよう、現在準備中である。担当：里見、奥野</p> <p>⑤ その他、企業や個別の問い合わせ対応、随時。</p>
<p><b>(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業</b></p>
<p>特になし。</p>

(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業

1) 海鳥・海洋保全活動の支援

毎年チャールズ・ダーウィン財団（CDF）がガラパゴス国立公園局と行う固有海鳥3種（ペンギン、コバネウ、アホウドリ）の生態調査を支援した。2020年度中、ペンギン基金より寄付があり、JAGAからの支援金と合わせてCDFに送った。調査結果によると、生息数はペンギンが1940羽、コバネウが2290羽で、高い水準で安定していることが分かった。2020年はラニーニャ現象の存在が一部で確認され、この場合ガラパゴスでは海面水温が低くなることから、浅い深度で採餌する海鳥は豊富な餌によって生息数が安定したのではないかと分析している。

2) スカレシアの森林再生プロジェクト支援

2019年度より支援を強化したスカレシアの森林再生事業。2020年度は、BESS フォレストクラブ、国土緑化推進機構「緑の募金」、SOMPO ちきゅう倶楽部から助成金を、JAGA 会員ら個人、そして株式会社成城石井から寄付を（エクアドル産バナナの売上の一部を、同国が誇る世界遺産であるガラパゴスへ、とのことで）いただき、サンタクルス島高地のスカレシアの森林再生事業を支援した。この場所では、かつては農地開拓が、現在では外来種が原因で、ガラパゴス固有の植物スカレシアでつくる純林が急激に減衰している。農家にとっても外来種は農業を阻害する要因になっており、CDF では農家と共に、外来種を駆除しスカレシアの苗を植林する活動を実施する計画を立てている。2020年度は、数ある農家の中から協力してくれる農家を探し、40農家に絞った。このうち3農家に試験的活動をしてもらい来年度以降の本格的保全事業に備えている。また、イサベラ島では同じスカレシアのホルダータ種が、サンタクルス島高地よりも深刻な状況にある。JAGAからの進言により、CDFから直接申請をした経団連自然保護基金の助成金ではホルダータ種の保全がメイン事業となっており、2021年度39,000ドルの支援が決定している。



3) チャールズ・ダーウィン研究所運営及び図書室資料デジタル化支援

2019年度より始まった、CDF 図書室の視聴覚資料のデジタル化事業。前田建設工業株式会社（東京）の支援により、5ヶ年の継続した支援2年目。約4500枚のスライド、約1000枚の写真をスキャンし、デジタル化。ハードディスクに保存した。島民からスタッフを選び、謝金を渡すことで雇用も生むことができた。今後公開に向けた作業も行う。

(5) ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業

特になし

(6) 調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業

特になし

(7) ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業

- ① 野生では100羽を切ってしまったとされる小笠原諸島の固有種オガサワラカワラヒワ（Ogasawara Green Finch）の、保全計画作りワークショップ（12/19 オンライン）を後援。オガサワラカワラヒワ PHVA 実行委員会主催。
- ② マングローブフィンチ（Mangrove Finch）の保全チームを招いたオンラインミーティング開催支援（2/10）。NPO 法人小笠原自然文化研究所主催。ガラパゴスで現在「最も絶滅に近い鳥類」とされるマングローブフィンチは、15年に渡り域外繁殖と生息域の保全が行われており、オガサワラカワラヒワと同じ“Finch”ということで、様々な分野で情報交換を行うことで、両種の保全に役立たせる。参加者からは好評で、今後も交流を続ける予定である。
- ③ 東京都とチャールズ・ダーウィン財団の連携協定事業の企画・立案・検討・討議・計画作り（2021年度、および2022年度）。小笠原諸島は2021年に世界遺産登録から10周年を迎え、本来ならば連携協定の枠組みで行事を計画していたが、COVID-19により予定が変更されて、現在調整中である。

(8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

■助成金／補助金の申請：東京商工会議所持続化補助金、トヨタ環境活動助成金、地球環境日本基金、申請、不採用。

■その他ファンドレイジングのための活動。

【謝意】 当期活動したボランティアら：赤間亜希、高木一輝、飯崎晶子、他。および理事・監事（敬称略・五十音順）

## 2020年度(第16期:2020年7月1日~2021年6月30日)活動計算書

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

科目	金額(円)		
<b>I 経常収益</b>			
1 受取会費			
正会員受取会費	298,672		
その他会員受取会費:個人/団体協力会員、学生会員	316,600	615,272	
2 受取寄付金			
寄付	855,855		
特典寄付:サポーター、カレンダー、植物ガイド	278,461	1,134,316	
3 受取民間助成金			
BESSフォレストクラブ支援協賛金	1,000,000		
緑の募金助成金	1,467,000		
前田建設工業株式会社支援金	500,000		
SOMPOちきゅう倶楽部	100,000		
帝人株式会社ボランティアサポートプログラム	100,000	3,167,000	
4 事業収益			
普及啓発事業:講演等	150,000		
情報提供事業:番組監修等	40,000		
東京都とチャールズ・ダーウィン財団連携協定締結事業	0	190,000	
5 その他収益			
受取利息、キャッシュバックなど	716	716	
<b>経常収益計</b>	<b>5,107,304</b>	<b>5,107,304</b>	<b>5,107,304</b>
<b>II 経常費用</b>			
1 事業費			
(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業 カレンダー事業、コーヒー事業、講演等	510,931		
(2) ガラパゴスに関連する情報の収集及び提供に係る事業 ホームページ、会報、SNSによる発信と情報収集	95,785		
(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業	0		
(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業			
1)海鳥調査・海洋保全事業	200,000		
2)植生保全事業	2,789,623		
3)ダーウィン研究所図書室デジタル化支援事業	553,277		
小計	3,542,900		
(5) ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業	0		
(6) ガラパゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業	0		
(7) ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業 東京都とチャールズ・ダーウィン財団連携協定締結事業	0	4,149,616	
2 管理費			
シェアオフィス利用費	107,690		
事務局運営委託費	780,000		
決済システム費	52,800		
通信費	62,957		
備品修理費	29,769		
会議費	27,001		
交通費	23,920		
消耗品費	8,136		
保険料	7,613		
雑費	2,470		
事務手続き費	1,770	1,104,126	
<b>経常費用計</b>	<b>8,796,642</b>	<b>5,253,742</b>	<b>5,253,742</b>
当期経常増減額			<b>-146,438</b>
税引前当期正味財産増減額			<b>-146,438</b>
法人税、住民税及び事業税			87,500
当期正味財産増減額			<b>-233,938</b>
前期繰越正味財産額			<b>3,741,201</b>
次期繰越正味財産額			<b>3,507,263</b>

## 1.重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

## (1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

## 2.事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	(1)環境教育 普及啓発事	(2)情報提供 収集事業	(4)保全支援 事業	事業部門計	管理部門計	合計
I 経常収益						
1.受取会費				0	615,272	615,272
2.受取寄附金	278,461		855,855	1,134,316		1,134,316
3.受取助成金等	100,000		3,067,000	3,167,000		3,167,000
4.事業収益	150,000	40,000		190,000		190,000
5.その他収益				0	716	716
経常収益計	528,461	40,000	3,922,855	4,491,316	615,988	5,107,304
II 経常費用						
1.事業費						
(1)普及啓発事業	510,931			510,931		510,931
(2)情報収集提供事業		95,785		95,785		95,785
(4)保全支援事業						
海鳥海洋保全			200,000	200,000		200,000
植生保全			2,789,623	2,789,623		2,789,623
CDF図書館デジタル化			553,277	553,277		553,277
2.管理費				0	1,104,126	1,104,126
経常費用計	510,931	95,785	3,542,900	4,149,616	1,104,126	5,253,742
(事業別)当期経常増減額	17,530	-55,785	379,955	341,700	-488,138	-146,438

## 3. 使途が制約された寄付金等の内訳

使途が制約された寄付金等の内訳(正味財産の増減及び残高の状況)は以下の通りです。

当法人の正味財産は3,507,263円ですが、そのうち使途が制約された財産はありません。

(円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
BESSフォレストクラブ 支援協賛金	0	1000000	1000000	0	全額を、ガラパゴスの植生再生事業に使用しました。
国土緑化機構 緑の募金	0	1480000	1480000	0	全額を、ガラパゴスの植生再生事業に使用しました。
前田建設工業株式会社 支援金	0	500000	500000	0	全額を、チャールズ・ダーウィン研究所図書室デジタル化支援事業に使用しました。

## 4. 役員及びその近親者との取引内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	うち役員および近親者との取り引き
(活動計算書)		
・受取寄附金	1,134,316	65,000
・事業費:普及啓発事業	510,931	220,000
・運営運営委託費	780,000	780,000
活動計算書計	2,425,247	1,065,000

第16期(2020年7月1日～2021年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計貸借対照表

2021年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金	額
<b>I 資産の部</b>		
1 流動資産		
現金預金	2,017,573	
未収金(緑の募金)	1,467,000	
前払金(シェアオフィス利用料)	107,690	
流動資産合計		3,592,263
2 固定資産		
土地	0	
建物	0	
車両運搬具	0	
固定資産合計		0
<b>資産合計</b>		<b>3,592,263</b>
<b>II 負債の部</b>		
1 流動負債		
未払法人住民税等	70,000	
前受会費	15,000	
流動負債合計		85,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
<b>負債合計</b>		<b>85,000</b>
<b>III 正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産		3,741,201
当期正味財産増減額		-233,938
<b>正味財産合計</b>		<b>3,507,263</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>		<b>3,592,263</b>

第16期(2020年7月1日～2021年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計財産目録

2021年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	147,134	
普通預金 みずほ銀行青山支店	525,629	
普通預金 三井住友銀行渋谷駅前支店	654,589	
郵便振替口座 ゆうちよ銀行	191,443	
PayPay銀行	498,778	
未収金(緑の募金)	1,467,000	
前払金(シェアオフィス利用料)	107,690	
流動資産合計		3,592,263
2 固定資産		
土地 所在 m <sup>2</sup>	0	
建物 所在 m <sup>2</sup>	0	
車両運搬具 乗用車 台	0	
固定資産合計		0
資産合計		3,592,263
II 負債の部		
1 流動負債		
未払法人住民税等	70,000	
前受会費	15,000	
流動負債合計		85,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		85,000
正味財産		3,507,263

2021年度 活動予算書

第17期(2021年7月1日から2022年6月30日まで)

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

科目		金額(円)	
<b>I 経常収益</b>			
1 受取会費			
受取り会費	800,000	800,000	
2 受取寄付金			
一般寄付金	1,000,000		
特典寄付金	2,000,000	3,000,000	
3 受取民間助成金			
BESSフォレストクラブ	1,000,000		
前田建設工業株式会社支援金	500,000		
その他企業助成金、補助金など	1,000,000	2,500,000	
4 事業収益			
普及啓発事業	200,000		
情報提供事業	200,000		
国際協力事業	500,000		
運営支援事業	2,500,000	3,400,000	
5 その他収益			
受取利息など	1,000	1,000	
<b>経常収益計</b>		9,701,000	<b>9,701,000</b>
<b>II 経常費用</b>			
1 事業費			
(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業 カレンダー事業、コーヒー事業	500,000		
(2) ガラパゴスに関連する情報の収集及び提供に係る事業 ホームページ刷新など	600,000		
(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業	0		
(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業			
1)海鳥調査・海洋保全事業	300,000		
2)スカレシアの森保全事業	3,400,000		
3)ダーウィン研究所図書室デジタル化支援事業	600,000		
4)ダーウィン研究所運営支援	300,000		
	4,600,000		
(5) ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業			
(6) ガラパゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業			
(7) ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業 東京都とチャールズ・ダーウィン財団連携協定関連事業	2,500,000	8,200,000	
2 管理費			
シェアオフィス利用費	100,000		
事務局運営管理費	960,000		
決済システム費	100,000		
通信費	100,000		
交通費	70,000		
会議費	70,000		
雑費	31,000	1,431,000	
<b>経常費用計</b>			<b>9,631,000</b>
当期経常増減額			<b>70,000</b>
税引前当期正味財産増減額			70,000
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			0
<b>前期繰越正味財産額</b>			<b>3,507,263</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>			<b>3,507,263</b>



## 第17期2021年度(2021年7月1日～2022年6月30日)事業計画

第17期(2021年7月1日～2022年6月30日)の事業方針及び事業計画は、以下のとおりである。

### (1) 環境教育・普及啓発事業

日本においては、講演活動や子どもたちへの出張授業等を通じて、ガラパゴスの生態系やそれを守る社会の仕組みについて伝え、それらに関心を持ってもらうと同時に、日本の環境保全や持続可能な社会に向けた取り組みに対して情報を提供したり、啓発を促進したりする。また日本とガラパゴスを繋げる様々な活動により、団体間や個人間の関係性を深め、ガラパゴスにおける保全事業への支援に繋げる。また自然管理や観光管理について、ガラパゴスの事例を紹介することで、日本における世界自然遺産地域の管理の参考となる情報を提供する。

- \* ガラパゴスと小笠原の人的交流、情報交換を行う。※(7)のCDFと東京都の連携協定に基づく事業とも連動。
- \* 「ガラパゴス写真コンテスト2021」開催、および「ガラパゴスカレンダー2022」制作、発行。ファンレイジング/普及や環境教育ツールとしても活用する。
- \* 原産地認証付きガラパゴスコffeeに関して、スカレシアの森林再生プロジェクトPRのため、イベントを開催したり、coffee豆を扱ってくれるリテイラー(カフェなどの小売業者)を発掘したりする。
- \* 時期を見て、「体験学習ツアー」を企画する。
- \* その他、教育機関等での講演、講師の派遣、出版物への原稿執筆や翻訳、監修など。

### (2) 情報収集提供事業

ガラパゴスに関するあらゆる情報にアンテナを張り、情報を収集すると共に、正しい情報を分かりやすく、手軽に閲覧できる媒体で提供する。

- \* JAGAホームページのリニューアルを行い、ガラパゴスの情報を積極的に発信する。
- \* メルマガ、ホームページ・SNSを活用した会員や一般向けの情報発信に力を入れる。
- \* 会報発行を継続する。(年2号)
- \* 教育・科学機関、科学番組への協力・監修、マスコミ対応、情報・写真提供など、随時。

### (3) 環境問題全般情報収集提供事業

近年関心の高まる海洋廃プラ、温暖化、リサイクル、SDGsなどについて、情報収集・提供する。

### (4) ガラパゴスの環境保全活動の支援

前年度に引き続き、海鳥調査海洋保全事業、スカレシアの森林再生事業、CDF図書館資料デジタル化事業を支援する他、CDFの活動全般や、島民団体や教育団体の草の根活動などへの支援を行う。特にスカレシアの減衰状況は深刻であり、かつ他からの支援が少ないことから、重点的に行う。また現地の状況やニーズについて随時現地と連絡を取り、必要なところに必要な支援を行う。

### (5) 国際協力事業

ガラパゴスのゴミ問題の解決に向け、JICAや外務省との連絡・連携を強める。

### (6) 調査研究支援事業

保全研究において、研究者や関係者同士を継続して繋ぎ、情報交換できる仕組みを作る。

### (7) 現地諸機関の運営支援事業

東京都からの委託事業として、ガラパゴスと小笠原を繋ぎ、保全を支援する。

### (8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

- ・企業や公的機関との関係を強化し、支援の働きかけを行う。
- ・コロナにより変化したガラパゴスの社会や向かう先について、情報収集を行う。
- ・NPOを対象にした企業のサービスを活用する。

役員選任（2021年10月1日～2023年9月30日）

理事会より、次期役員を選任に関して、以下の提案および報告を行う（五十音順・敬称略）。

1. 理事の重任（9名）

清水 善和（理事長）  
眞板 昭夫（副理事長）  
奥野 玉紀  
海津 ゆりえ  
可知 直毅  
櫻 博子  
里見 嘉英  
西原 弘  
矢ヶ部（倉田） 薫子

2. 監事の重任（2名）

枝松 克巳  
波形 克則

【備考：当会定款の規定（抜粋）】

（役員の種類及び定数）

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事5人以上12人以内
  - (2) 監事2人以上4人以内
- 2 理事のうち1人を理事長、1人以上3人以内を副理事長とする。

（選任等）

第14条 理事及び監事は、総会において正会員の中から選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 （略）
- 4 （略）
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

以上